

新ト協 発 第127号
平成30年1月5日

会 員 各 位

公益社団法人 新潟県トラック協会
会 長 小 林 和 男

平成29年中の事業用貨物自動車交通事故発生状況について

会員事業所の皆様におかれましては良き年をお迎えのこととお慶び申し上げます。
昨年中は、交通安全活動へのご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。
本年も何とぞよろしくお願い申し上げます。

さて、平成29年中に新潟県内で発生した事業用貨物自動車の交通事故発生状況について、県警察の統計を基にまとめましたので送付いたします。

これを見ますと、昨年の特徴は

- ・ 死者数、負傷者数とも前年よりも減少したものの、発生件数は前年同数であること
- ・ 違反別の事故発生状況では、安全運転義務違反による事故が84%を占め、このうち94%が「わき見運転」であること
- ・ 事故類型では、全事故の56%が追突事故であること
- ・ 事故件数は県内車籍に多く、有責死亡事故件数は全て県内車籍であること

などが上げられます。

また、単路での事故が52%を占め、次に交差点及び交差点付近での事故が44%と続いている。

本年は、悲惨な事故を1件でも減少させるため

- ・ わき見運転等による追突事故の防止に努める
- ・ 単路といえども油断せず運転に集中し、交差点では安全確認を最優先に行う
- ・ 点呼時には道路状況や天候を踏まえた安全輸送に必要な具体的指示を励行することなど、より一層の交通事故防止及び輸送の安全確保に努められますようお願い申し上げます。

以上

(担当：適正化事業部 近藤)

事故防止対策の重点

1 わき見による追突に注意する。

トラック事故全体の80件が「わき見運転」による安全運転義務違反です。

トラックの追突事故は57件と依然として多く、その原因は、目の疲労や運転疲労を招きやすく、「漫然運転に陥りやすい」という特性があるからです。

「トラックの特性」を十分に自覚し、先々の状況に目配りし、前方の信号が青でも、前車の減速・停止を予測した運転に努めてください。

2 交差点事故に十分注意する。

道路の形状別事故では、交差点事故は直線事故に次いで多く発生しています。

トラックは、後方や側面の「死角」が大きいことや、「内輪差」が大きいことから交差点では、同一方向の歩行者、自転車を巻き込む危険性があります。

交差点の右左折時には早めの減速と十分な安全確認に努めてください。

3 点呼時には、「安全輸送に関する具体的な指示」を確実に行う。

乗務前点呼を行う際は、「必ず輸送の安全に関する指示」を行ってください。

指示内容は、天候や路面状況にも注視し、できるだけ具体的にお願いします。

特に、夜間運行の場合、運転に支障を及ぼさないようにするため、昼間は静養させることが必要です。

点呼時には、「アルコールチェック」は当然ながら、「静養したか否か」も確認し、運転者の年齢や健康状態にあった内容の指示をしてください。

【指示例】

交差点の右左折時には、早めの安全確認と徐行の励行。

道路の混雑が予想される場合は、イライラせず、平常心で運転する。

降雪時には急ブレーキ、急加速、急ハンドル等の急のつく動作をしない。

お年寄りや子供を見たら、急な飛び出しなどに注意する。

連続運転は事故のもと。必ず十分な休憩・休息を取る。

深夜の高速道や国道でも障害物があります。油断せず常に運転に集中する。

速度に応じた車間距離を十分にとる。

眠気がさしたら無理をしないで必ず休憩を取る。

後退時に少しでも不安を感じたら降車して後方確認をする。

走行中に衝撃を感じたら必ず停止し、車両及び現場を確認する。

平成29年 事業用貨物自動車の県内交通事故発生状況(12月末概数)

	合計	トラック等	トレーラー	1BOXカー	冷凍保冷車	ライトバン	ダンプカー
件数	101	80	5	6	4	3	3
(前年比)	(0)	(+4)	(-2)	(-2)	(-2)	(-1)	(+3)
県内車	69	52	4	6	1	3	3
(前年比)	(+3)	(+3)	(0)	(-2)	(-3)	(+2)	(+3)
県外車	32	28	1	0	3	0	0
(前年比)	(-3)	(+1)	(-2)	(0)	(+1)	(-3)	(0)

死者	4	2	2	0	0	0	0
(前年比)	(-2)	(-3)	(+1)	(0)	(0)	(0)	(0)
県内車	4	2	2	0	0	0	0
(前年比)	(+3)	(+1)	(+2)	(0)	(0)	(0)	(0)
県外車	0	0	0	0	0	0	0
(前年比)	(-5)	(-4)	(-1)	(0)	(0)	(0)	(0)

傷者	128	99	5	8	8	4	4
(前年比)	(-4)	(-4)	(-3)	(-2)	(+1)	(0)	(+4)
県内車	83	62	4	8	1	4	4
(前年比)	(-7)	(-8)	(-1)	(-2)	(-3)	(+3)	(+4)
県外車	45	37	1	0	7	0	0
(前年比)	(+3)	(+4)	(-2)	(0)	(+4)	(-3)	(0)

(トラックには、パネル車、コンテナ車、タンク車、ミキサー車、塵芥車を含む。)

県全体の交通事故発生状況

区分\年別	29年	28年	増減数	増減率
発生件数	4,304	4,694	-390	-8.3%
死者数	85	107	-22	-20.6%
負傷者数	5,129	5,575	-446	-8.0%

・新潟県全体としては、前年に比べ発生件数、死者数、傷者数は減少した。

事業用貨物自動車による交通事故発生状況(カッコ内は前年比)

区分	発生件数(件)	死者数(人)	傷者数(人)
事業用貨物自動車	101 (0)	4 (-2)	128 (-4)
トラック等	80 (+4)	2 (-3)	99 (-4)

・事業用貨物自動車としては、前年に比べ死者数・傷者数は減少したが、発生件数は同数であった。

・トラック等としては、前年に比べ死者数・傷者数は減少したが、発生件数は4件増加した。

【トラック等による交通事故発生件数は、事業用貨物自動車事故全体の79.2%を占めている。】

〔事業用貨物自動車の違反別・事故類型別等の事故発生状況〕

1. 違反別事故発生状況(カッコ内は前年比)

区分		発生件数(件)	死者数(人)	傷者数(人)
(1)安全運転義務違反		85 (+4)	0 (-2)	109 (-3)
内訳	わきみ	80 (+8)	0 (-2)	102 (0)
	操作不適	4 (-2)	0 (0)	6 (-1)
	安全速度	0 (-1)	0 (0)	0 (-1)
	その他	1 (-1)	0 (0)	1 (-1)
(2)信号無視		3 (-5)	0 (0)	4 (-6)
(3)歩行者妨害		7 (+4)	0 (0)	7 (+4)
(4)一時不停止等		0 (-3)	0 (0)	0 (-3)
(5)右側通行		0 (-1)	0 (-1)	0 (-1)
(6)追越し		0 (-1)	0 (0)	0 (-1)
(7)右左折		0 (0)	0 (0)	0 (0)
(8)交差点安全進行		3 (+2)	2 (+2)	2 (+1)
(9)その他		3 (0)	2 (-1)	6 (+5)

・安全運転義務違反による事故が、全体の84.2%を占めている。

・安全運転義務違反の中で、94.1%が【わきみ運転】違反である。

2. 主な事故類型別(カッコ内は前年比)

区分		発生件数(件)	死者数(人)	傷者数(人)
(1)車両相互		86 (-1)	2 (-2)	114 (-6)
内訳	追突	57 (+5)	0 (-3)	75 (-6)
	出会い頭	3 (-11)	0 (0)	3 (-13)
	右・左折時	8 (-1)	0 (0)	9 (-2)
	追越追抜時	2 (-1)	0 (0)	2 (-1)
	正面衝突	4 (+2)	2 (+1)	7 (+5)
	すれ違い	3 (+2)	0 (0)	5 (+4)
	その他	9 (+3)	0 (0)	13 (+7)
(2)人対車両		14 (+4)	2 (+1)	13 (+4)
内訳	横断歩道横断	8 (+5)	0 (0)	8 (+5)
	その他横断	1 (-2)	2 (+2)	0 (-3)
	対背面通行	4 (+3)	0 (0)	4 (+3)
	その他	1 (-2)	0 (-1)	1 (-1)
(3)車両単独		1 (-3)	0 (-1)	1 (-2)
内訳	工作物衝突	0 (-3)	0 (-1)	0 (-2)
	路外逸脱	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	その他	1 (0)	0 (0)	1 (0)
(4)列車		0 (0)	0 (0)	0 (0)

・追突事故が多く、事故全体の56.4%を占めている。

3. 道路形状別事故発生状況(カッコ内は前年比)

区分	発生件数(件)	死者数(人)	傷者数(人)
(1)単路	53 (+7)	0 (-4)	69 (+3)
(2)交差点	22 (-7)	2 (+2)	22 (-14)
(3)交差点付近	23 (+3)	0 (-1)	31 (+6)
(4)カーブ	2 (-1)	2 (+1)	5 (+3)
(5)その他	1 (-2)	0 (0)	1 (-2)

・単路での事故が多く、事故全体の52.5%を占めている。

・交差点及びその付近での事故が、44.6%と続いている。

4. 車籍別事故発生状況(カッコ内は前年比)

区分	発生件数(件)	死者数(人)	傷者数(人)
(1)県内車	69 (+3)	4 (+3)	83 (-7)
(2)県外車	32 (-3)	0 (-5)	45 (+3)

・県内車の事故としては、前年に比べ傷者数は減少したが、発生件数が3件、死者数は3名増加した。